

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)	◎	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの分類が5類感染症になることで、これから人の交流がますます増えることになり、コロナ禍前の水準に近づくことになる。
	◎	旅行代理店（従業員）	・5月に新型コロナウイルスが5類感染症に移行することから、これまで抑制されていた観光需要が一気に回復することになる。コロナ禍前には食と自然を求める多くの観光客が北海道を訪れていたことから、今年は夏季の繁忙期が戻ってくると期待している。
	◎	観光名所（従業員）	・修学旅行の予約が入っていること、豪華客船の寄港がみられ始めていることから、コロナ禍前の風景を取り戻しつつある。また、インバウンドもアジア圏以外の欧米からのツアー予約が以前よりも増えており、より期待を持てる状況となっている。当たり前の日常が戻ってくるのは間近とみられる。
	◎	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・ツアー客の予約状況から、今後も新型コロナウイルス感染症による影響が限定的なものになれば、前年をはるかに上回る輸送量が期待できる。
	○	商店街（代表者）	・今後については、当地の夏祭りの時期となるため、郊外や近隣町村からの来街者が増加することになる。また、学生の夏休み期間でもあるため、遊興を目的とした若年層の来街も多少は増加することになる。
	○	商店街（代表者）	・観光は順調に回復している。海外旅行への不安がまだ残っていることから、観光客の目が国内観光に向けられており、しばらくは国内消費が続くことになる。また、北海道の観光資源が乏しい時期にもかかわらず、外国人観光客の入込が順調に推移していることもプラスである。これから新緑のシーズンを迎えることで一層の入込増加が期待できる。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・今後、売上の回復傾向に勢いが出てくると期待している。ただ、過去何回か期待を裏切られてきたため、やや控えめにとらえている。
	○	百貨店（販売促進担当）	・気温の上昇に伴い、春物衣料の売上が堅調に伸びている。このまま新型コロナウイルス感染症に関連した制限の緩和が進めば、来客数がますます増えることになり、買上客数も順調に増加することになる。
	○	百貨店（マネージャー）	・客の動向を注視する必要があるが、これから大きな販促企画を予定していることなどから、景気はやや良くなる。
	○	スーパー（店長）	・これまでの世の中の制限が全体的に緩和されつつあるため、景気はやや良くなる。
	○	スーパー（企画担当）	・観光客の増加など、人々の行動が活発化することが見込めるため、今後の景気は良くなる。ただ、物価高騰がおもしとなり、全体では若干の景気回復にとどまるとみられる。
	○	スーパー（役員）	・客の節約志向は強まるとみているが、それ以上に外食から内食へのシフトが強まるとみられ、売上の増加が期待できる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・今後の景気はやや良くなる。来客数が少しずつ回復していることが一番の要因である。ただ、物価上昇に見合った賃金の上昇がなければ、消費は縮小する一方である。客に何とかもう1品購入してもらえようとするのが売上回復に向けた最重要課題となっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	・ゴールデンウィークの人の動きがコロナ禍前に近い状況となっているため、今後の景気はやや良くなる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・観光客やイベントの増加に伴って、これから夏場にかけて来客数が増加することになる。
	○	衣料品専門店（経営者）	・今後もアフターコロナに向けた行動が続くとみられることから、景気はやや良くなる。
	○	衣料品専門店（店長）	・今後も人の動きが活発になれば、これまでのコロナ禍における買い控えの反動で一定数のシャツやスラックスの買換えを期待できる。
	○	家電量販店（店員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少、マスク着用の見直しなどで解放感が出てきているため、今後、気温の上昇とともに、夏物家電の売行きが上向くことを期待している。
○	乗用車販売店（経営者）	・半導体不足の影響は続くと思われるが、第2四半期も堅調な販売を維持できるとみられる。	

○	乗用車販売店（従業員）	・今が景気の底であり、今後の景気は下げ止まることになる。旅行業界など、様々な業界でこれから金が回るようになれば、物価高の影響も落ち着くようになり、景気も上向くと期待している。新型車が出ることも受注量の増加に向けてのプラス材料となる。
○	観光型ホテル（スタッフ）	・先々の予約が増加しており、売上、販売量共に期待できる手応えがある。また、全国旅行支援に頼らない形の予約が増えており、客単価も上昇しつつある。状況分析に際して、比較対象が前年ではなく、コロナ禍前になりつつあることも回復傾向の表れである。
○	旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルス感染症の影響による最近3年間の旅行中止の反動もあって、徐々に団体旅行の相談が増えていることから、今後の景気はやや良くなる。
○	旅行代理店（従業員）	・5月8日に新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症になることが契機となり、法人の団体旅行気運が更に高まると期待している。ただ、海外旅行の需要回復にはまだ時間が掛かるとみられる。
○	タクシー運転手	・インバウンドや国内観光客の間合せなどが徐々に増えていること、新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症になることで業務を行いやすくなることから、今後の景気はやや良くなる。行楽シーズンを迎えることもあって期待は大きい。
○	タクシー運転手	・乗務員の充足状況次第ではあるが、ゴールデンウィークの観光予約が堅調なことから、今後の景気はやや良くなる。
○	タクシー運転手	・売上がコロナ禍前の6～7割の水準まで回復しており、これから一層上向きそうな気配もあることから、景気はやや良くなると期待している。
○	通信会社（企画担当）	・例年9月に発売開始となる人気の通信端末が発売されるまではやや落ち着いた動きになると見込んでいるが、ポイントサービスなどを通じた需要の増加を期待できるため、今後の景気はやや良くなる。
○	観光名所（職員）	・新型コロナウイルス感染症に関連した制限が緩和されていることで徐々に客足が戻っている。ゴールデンウィークの国内需要も期待できることから、今後の景気はやや良くなる。国や自治体による更なる経済施策にも期待している。また、中国も含めたインバウンドの完全回復も待ち望まれる。
○	美容室（経営者）	・旅行を始めとして客の外出機会が増加しており、それに伴って売上も伸びていることから、今後の景気はやや良くなる。
□	商店街（代表者）	・物価が上昇しているため、今後も景気は変わらないまま推移する。
□	一般小売店〔土産〕（経営者）	・アジアからの観光客が客の半数を占めており、その回復の早さに驚いている。アジア各国の経済はこれから更に上向くとみられることから、今後の景気はやや良くなる。また、これからもアジアからの観光客を呼び込んでいくためには、アジア各国の人が喜ぶような街並みを生み出していくことも必要である。
□	百貨店（売場主任）	・新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行や商材の値上げなどの影響は今後も続くとみられるため、景気は変わらないまま推移する。
□	スーパー（店長）	・コロナ禍で低迷していた商材についてはリベンジ消費で夏休み期間までは伸びると見込まれる。ただ、原価高騰の影響による値上げが継続していることから、1人当たりの買上点数が増加する兆しはみられない。全体的にはプラスマイナスが相殺され、現状とさほど変わらない状況で推移する。
□	コンビニ（エリア担当）	・新年度になり、所得が増えた人がいる一方で、給与の上がない人や収入の変わらない年金受給者もいる。特に後者にとってはこれから生活が厳しくなることが見込まれる。全体的にみると、商品単価が上昇した分だけ、売上が増えることになるが、立地や客層によっては売上が増えない店舗が出てくるのが考えられる。また、営業経費の上昇分を売上増加で吸収しきれない店舗が出てくることも懸念される。これらのことから、今後も景気は変わらないまま推移する。
□	コンビニ（店長）	・価格が下がらない限り、より安い商材へという流れは変わらないため、今後も景気は変わらない。

□	衣料品専門店（エリア担当）	・現在の原価高騰の流れや、食品の値上げは今後も継続するとみられるため、必要最低限の買物で済ませるような消費動向が続くことになる。今後の劇的な来客数回復は見込めない。
□	乗用車販売店（経営者）	・4～6月にかけても受注残の遅延を若干解消しながら、堅調な販売が続くとみられるものの、受注停止車種が多いため、思うように注文を取れない状況も続くことになる。一方、周りをみると、コロナ禍から一転、人の動きが活発になっている。グループ会社では好調なところも一部で見られる。
□	乗用車販売店（従業員）	・賃上げが期待ほどの金額に達していないこと、物価の上昇が続いていることから、景気は今と変化のないまま推移する。
□	乗用車販売店（従業員）	・今後について、新型車の発表も特になくことから、現状のまま推移することになる。
□	住関連専門店（役員）	・これから日用品の値上げが予定されているため、今後も来客数の減少が続くことを懸念している。
□	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・一般の薬局は、各メーカーの突発的な値上げによって大きな影響を受けている。今後、数か月は厳しい状況が続くことになる。
□	その他専門店〔造花〕（店長）	・原材料の価格高騰に伴う商品価格の上昇に歯止めが掛からないため、今後も客の買い控え傾向が続く。
□	高級レストラン（スタッフ）	・先行きの景気はよく分からない。観光客の増加に伴って来客数は増えるとみられるが、低単価メニューが中心のため、売上アップは見込みにくい。また、スタッフを補充して予約制限のない状態で営業したいが、補充に見合う利益を出すことは難しいとみられる。
□	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行することで、宿泊部門や飲食部門の利用客の動向がどのように変化するかが不透明である。
□	高級レストラン（スタッフ）	・5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行することで、コロナ禍前の景気に回復することが見込まれる。インバウンド需要も徐々に回復しているため、今後も落ち込むことなく、4月と変わらない水準で推移することになる。
□	観光型ホテル（経営者）	・全国旅行支援の割引率低下に伴う効果の落ち込みと物価高などにより、特に地方への旅行の出足が鈍い。コロナ禍前の状況には程遠いことから、今後も景気は変わらない。
□	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染対策に伴う行動制限があった時期と比べると人出は増えているが、これから暖かくなると、冬期間と比べてタクシーの利用が減ることになるため、売上も減るようになる。
□	タクシー運転手	・食料品や日用品の値上げが続く一方で所得は伸びていない。社会保障もあてにならないことから、客が消費を抑えることになる。景気が上向く要因が少ないことから、今後も景気は変わらない。
□	通信会社（エリア担当）	・通信キャリアの戦略が影響し、今後も厳しい状況が続くことになる。
□	通信会社（エリア担当）	・先が見えない状況であるため、今後も景気は変わらない。
□	美容室（経営者）	・景気が悪くなることを想像しやすい状況であり、景気が良くなるような要素が見当たらない。賃上げへの対応も課題であるため、今後も厳しいまま変わらない。
□	住宅販売会社（経営者）	・インフレが進行しているが、長期金利が大きく上昇しない限り、実需中心の分譲マンション市場の動きが落ち込むことはない。ただ、分譲マンション市場が更に伸びていくためには、需要層全体の所得が伸び、インフレへの耐性が強まる必要がある。
▲	商店街（代表者）	・客から、物価上昇に見合うほど給料が上がらないという声が聞こえていることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（店長）	・物価高、光熱費の上昇、ウクライナ情勢の影響が尾を引いている。客は余計な物を買わないようにしていることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（企画担当）	・商品単価の上昇幅が拡大する一方で、買上点数の減少幅が拡大しており、食料品に対する節約志向、買い控えの傾向が強まっている。特に北海道では鶏卵不足が各方面に甚大な影響を与えており、今後の消費動向に対するマイナスの影響が懸念される。

	▲	スーパー（従業員）	・小売業において、売上が減少傾向にあることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルス感染症の影響が薄れ、これまでのような巣籠り需要が期待できないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	旅行代理店（従業員）	・現在の旅行需要増加による反動減が少なからず生じるとみられる。全国旅行支援など、国や都道府県が実施している各種施策の終了も今後の旅行需要減少につながる要因の1つとなる。
	▲	住宅販売会社（経営者）	・住宅の着工数が前年と比べて大幅に落ち込んでいる。木材合板の価格も下がり始めているが、工賃などはこれまでと余り変わらず高値のままになっているため、今後の住宅需要の回復は見込めない。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・物価上昇に伴って消費マインドが低下しており、今後の賃金上昇によってマインドがどの程度持ち直すか、その状況次第である。
	×	一般小売店（経営者）	・今後も外出に伴う支出が増えるとみられるため、その分、売上が落ち込むことになる。
企業 動向 関連  (北海道)	◎	—	—
	○	家具製造業（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が終息し始めていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	建設業（経営者）	・これから土木工事の受注が進み、稼働が上向いてくる時期であり、秋口までは天候や人手、資機材の手配などの制約が少ないため、施工には最適な環境となる。特に今年は雪解けが半月ほど早く、例年よりも早く土木工事の着工が始まっていることから、景気はやや良くなる。
	○	金融業（従業員）	・企業物価及び消費者物価の上昇がピークアウトする見通しであること、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴う人流拡大が見込めること、賃上げの実現により消費者マインドが持ち直すことが期待できるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	司法書士	・暖かくなると何となく気分が上向きとなり、財布のひもも緩むようになるため、これから景気が上向くことを期待している。
	○	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・新年度が始まり、新規案件がそれなりに出てきていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・慢性的な人手不足が続いているものの、インバウンド需要の回復、各種商材の値上げ、各企業の積極的な賃上げなど、経済が拡大しそうな要素が相当にあることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・インフレ懸念や労働者不足といった問題はあるものの、需要は今後も堅調に推移する見通しである。
	□	農林水産業（経営者）	・前年のりんごの収穫状況から、6月はどうか4月と同じくらいの動きになると見込まれる。ただ、7月は端境期となるため、見通しが立たない。
	□	食料品製造業（従業員）	・値上げに伴って、売場から当社の商材をカットする動きが一部でみられたため、今後の販売量の増加が見込めない。
	□	食料品製造業（従業員）	・3月から商材の内容量を少なくしており、それと同じタイミングで商材の納入価格を1つに統合した。特売時の特売価格がなくなったことで安売りされることはなくなったが、特売で扱われることもなくなったため、全体で見ると販売量が減少しており、今後も景気は変わらない。
	□	金属製品製造業（従業員）	・今後については、景気がどうなるか分からない。
	□	建設業（役員）	・5月以降に入札となる公共土木工事においても新規受注を期待できるため、新年度計画を上回るペースで推移する見通しは変わらない。ただ、建設資材のひっ迫感が一部で弱まりつつある一方で、価格上昇が続いているため、コストアップを避けられない状況にある。
□	輸送業（支店長）	・当社は取扱品目が多いため、全体的には年間の変動が少なく、売上也安定して推移することになる。また、3か月先までは売上増加が期待できるようなスポット商材の取扱予定もないため、今後も景気は変わらない。	

	<input type="checkbox"/>	通信業（営業担当）	・道内全体では観光客の入込や飲食店の来客数の回復など、景況感の改善に向けた動きを感じるものの、燃料費や仕入価格の上昇が一段と進んでいる。景況感はプラスとマイナスで相殺されるため、現状からの更なる上振れは厳しく、横ばいでの推移となる。
	<input type="checkbox"/>	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・最近では市場の動きが停滞気味だが、夏場以降の仕事量は見込めているため、これから市場が動き出すとみられる。ただ、物価高騰の影響も懸念されるため、楽観視できない状況にある。
	<input checked="" type="checkbox"/>	建設業（従業員）	・物価高騰や施工者不足により工事費が上昇しているなか、新たに半導体製造工場の進出が発表されたことで施工者不足に拍車が掛かり、工事費の更なる上昇が見込まれる。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
	<input checked="" type="checkbox"/>	司法書士	・地方都市においては、物価高騰や人口減少などの影響に加えて、物流の2024年問題の影響も懸念されることから、更なる衰退が見込まれる。有効な対策を立てることもできない状況にあることから、今後の景気はやや悪くなる。
	<input checked="" type="checkbox"/>	—	—
雇用 関連  (北海道)	<input checked="" type="checkbox"/>	—	—
	<input type="checkbox"/>	人材派遣会社（社員）	・観光客の増加に伴い、観光業界からの求人数が増えることが見込まれる。ただ、求職者からの人気が低く、需要とのバランスが悪いため、人材調達に苦戦するとみられる。また、最近では転職先の絞り込みに迷っている求職者が多く、結果的に内定辞退が増えている。企業の採用活動もその分遅れることになり、求人期間が延びる傾向がみられる。
	<input type="checkbox"/>	職業安定所（職員）	・当地における月間有効求人数は24か月連続で前年を上回っており、全体的には回復の兆しがみられる。ただし、産業や業種によってその度合いが異なっており、今後の新型コロナウイルスの感染状況、経済活動、消費行動の状況によっては先を見通せない状態となることも懸念される。
	<input type="checkbox"/>	求人情報誌製作会社（編集者）	・飲食店への人出が戻りつつある。新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症に移行することで、人の動きがますます活発になるとみられるものの、求職者の動きが鈍いことが、景気回復への足かせとなっている。
	<input type="checkbox"/>	求人情報誌製作会社（編集者）	・観光客数が回復してきていることを踏まえると、もう少し景気が上向きになってほしい。原材料などの値上げによる物価高が景気回復に向けての足かせとなっている。
	<input type="checkbox"/>	求人情報誌製作会社（編集者）	・人手不足は否めないものの、電気料金の引上げ、円安などの外部要因が影響して求人を控えている雰囲気があるため、今後も景気は変わらない。
	<input type="checkbox"/>	職業安定所（職員）	・賃上げなどにより労働条件が良くなれば、景気は上向きことになる。小売や飲食業、観光業などの業績が回復したとしても働く労働者に還元されるようにならなければ、景気は良くならない。
	<input type="checkbox"/>	職業安定所（職員）	・新規求職者数が前年と比べて増加しているものの、有効求職者数は8か月連続で減少している。原油や原材料の価格高騰など、事業環境の悪化を招く要因は多いものの、今のところ業況堅調な事業所から、新規求人がコンスタントに公開されていることから、今後も景気は変わらないまま推移する。
	<input checked="" type="checkbox"/>	求人情報誌製作会社（編集者）	・企業の採用活動が人材の動きを見ながらのものになりそうなことから、例年よりも掲載頻度が少なくなることが見込まれる。
	<input checked="" type="checkbox"/>	—	—